

令和6年度の教育活動等における学校評価書

令和7年2月25日

学校法人 麻機幼稚園 園長 高橋明人

学校法人 麻機幼稚園学校関係者評価委員会

- 1 教育目標 「健康で明るく元気な子」
 重点目標「元気いっぱい(元気なあいさつができる)」「やる気いっぱい(好きな遊びを見つける)」「笑顔いっぱい(自分の気持ちを伝える)」
- 2 教育方針 自然に恵まれ、うるおいとゆとりある環境の中で、様々なものや事柄に興味関心をもち、大勢の人とかかわり合いながら、身体を精一杯動かしたり、遊びを工夫したりして、自分の考えをもち、自分で行動できる子を育てる。このような資質をもった次代を担う人づくりをめざす。
- 3 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果 A:よくできている B:概ねできている C:余りできていない D:できていない

評価項目	評価	自己評価の視点、理由、改善点など	評価	学校関係者評価委員会意見
0 子どもの姿	A	<p>○「本園教育目標」「3つのいっぱい」への子どもの姿</p> <p>まず、「子どもが喜んで登園しているか」には、職員100%、保護者の98%は、「常に」か「ほとんど」できているという回答をしている。教育目標「健康で明るく元気な子」を目指すにあたって、もっとも大切な事は、このように「幼稚園に来る」ということである。「元気いっぱい」の今年度の重点は「いつでも元気に挨拶をする」ことであるが、保護者職員共にできていると感じるのは85%であった。朝や帰りを中心に一日の始まりや終わりとして挨拶が普通に交わされている。見学の方には職員が子どもに声をかけて挨拶をするように促すが子どももそれに明るく応えている。私としてもっとも素晴らしいと思うことは、すでに満3歳児から感じるのだが、朝来ると友だち同士での挨拶が交わされることもある。年長児となると、友だちの名前を呼んで挨拶を交わし、その友達と遊びが繋がっていくことが多い。</p> <p>「やる気いっぱい」は、「夢中になって遊ぶ」内容が重点として付け加わった。職員の評価は100%。学年によっては、好きな遊び</p>	A	<p>○まず初めに園に入った時「おはようございます」とどの子からも元気のよいハキハキとした返事が返ってきて、とても気持ちよく感じられ、挨拶がしっかりできていると感じました。</p> <p>○3歳児でも、お互いに挨拶ができるというのは素晴らしいことだと感心しました。</p> <p>○下駄箱に名前と顔写真が貼られていて間違い防止や園児同士の関わり合いのツールにもなるのでしよう。</p> <p>○子どもの行動に個人差があるのは仕方ありませんが、全体を見ながら遅れのある子を見捨てず間違いがあればやり直しをさせ、遅れのある子が終わってから次のステップに移って教育している姿が見られ、どの子も見捨てていない姿に感心しました。</p> <p>○幼稚園の先生方とお話しすると、子どもが元気に登園するかどうかを重要な指標の一つと見ていることが伝わってきます。先生方のそういう姿勢が「ほとんどのお子さんが喜んで登園している」という実績につながっているのかもしれない。また、幼稚園に行くと、元気よく挨拶し自由に遊んでいる子ども</p>

を見つける段階もあるが、その段階から今年度はステップアップさせた重点だが、職員にとってはどの子もほとんどの子はできているという自負があるようだ。

「笑顔いっぱい」は「自分の気持ちをしっかり伝える」を大事にしたいと考えた。保護者は、挨拶もそうだが子どもに不十分な点を感じることもあり厳しい見方であるが、職員は8割がほとんどできていると感じている。ただこの項目に至っては、「いつもできている」という評価をした職員はいない。

子どもの姿としては、全ての子が完全にいつもできるわけではないが、どの子をとってみても、喜怒哀楽を含め、その子なりの姿や表れが幼稚園でも見え、それが日々成長へとつながっている。

こういう姿を「伸び伸びと生活する子」とであると捉え、成長への機会に満ち溢れた園生活や遊びを行っていると考えられる。

○今年度の重点「いろいろなことに挑戦してみよう」の達成度

・本園は、一斉を主とした活動の中で、学級の皆が同じめあてを達成することを目的とした保育を進めている。主活動は技能的な習熟を目的とするものが多く、保育者や学年で決められた教材・手順ややり方によって、どの子も同じ技能の習得を目指した指導を行い、できるようにしていくことが目的だと言える。今年度の重点は、「子どもが夢中になれる多様な体験活動を計画実践し、いろいろなことに挑戦することで、楽しかったことやできたことなどへの満足感や達成感を子ども自身が感じ取るような保育」を展開してほしいと考えた。自己点検シートでは、100%が「常に」「おおむね」できたと答えている。挑戦への過程はいろいろあるものの、発揮する場である行事へのモチベーションはとても高く、保護者に見てほしい思いなど、がんばった成果を表したいという思いが強いのだろう。

もたちの姿が見られますから、『元気いっぱい』『やる気いっぱい』という目標は達成されているように感じます。

自分の気持ちを伝える『笑顔いっぱい』は、他の2つに比べ達成難易度がやや高い目標ですが、自分の気持ちを伝えることは卒園後も大事になってくるスキルなので、「自分の思いは表に出していいんだよ」「口に出さないと相手に伝わらないよ」ということは、引き続き子どもたちに教えていって欲しいと思います。

今年度の重点「いろいろなことに挑戦してみよう」については作品作りや発表会などが該当するのかなと思いますが、先生の指示を聞きながら各々の力を発揮していたように見えました。

○園に行くといつも、全体の雰囲気明るく、子どもたちも先生たちもイキイキしている。

どの子も表情豊かで、感情を表に出すことができるので、とても素敵だと思った。

園に行くたびに、子どもたちが積極的に挨拶や声掛けをしてくれるので、こちらもいつも元気をもらっている。

今回、全体での活動と個としての活動を見ることができたが、ほとんどの子が切替えが上手にできており、先生方による日々の工夫の中で子どもたちの集中力も培われていることを感じた。

○どの子も笑顔で元気いっぱい挨拶をしていました。人懐っこい園児です。

○グラウンドでの遊びの様子を見てみるとたくさんの道具と遊具が用意されていて、自分の興味で伸び伸びと遊んでいました。

○室内では、教室内の積み木やままごとセットなど自分の好きなものを使って楽しく遊んでいました。

○一人遊びが好きな子もいますが友だちと接するときに、言葉を交わしながら関わりをつくっていました。

○学級の始まり時にちゃんと自分の席に座ったり、姿勢を正したりすることが年少の子どもでもできていたことにびっくりしました。

				<p>○準備物の用意、手紙のしまい方、手洗い、うがいなどの子もやることができていました。日常の活動が習慣化されています。</p> <p>○先生の仕事内容も多くなっている中で、工夫され、がんばっている様子が分かりました。</p> <p>○園児の個性を伸ばす上で、選択肢が多い方が良いのですが、先生の負担とバランスをとりながら実施されるとよいと思います。</p>
<p>I 保育の計画性</p>	<p>A</p>	<p>○今年度の保育方針に基づいた保育の計画・実践・振り返り</p> <p>保育計画については、計画の評価反省点を活かしていることについては、80%以上が「おおむねできた」という自己評価をしている。行事面は特に、コロナ禍以前に戻すという理念の中、やり方についてここ2年でかなり再検討されてきた。今年度は天候の関係で行事の日程をかなり変更させることもあった。全体の流れに関わる変更になるので、各学年が計画的に子どもを育てることが大事であった。どの職員も前向きに考え、コロナ後に検討されてきたことでも、新たな可能性を求めて建設的な協議ができたことがよかった。</p> <p>○子どもへの願いやねらいをもち、幼児の興味関心に応じながら指導計画を作成している。</p> <p>自己評価のできているという評価は、「常に」が50%「ほとんど」が50%で、できているは100%と高い。同じ目標に向かって一斉に取り組む中で、個々に対して、願いや対応を考えるのは難しいことである。特にこの項目は「子どもの発想を取り入れて、主体的に関わりたくなったり、自から活動を展開していけるような環境構成をしたりしている」という内容なので、「ねらい」に合わせ、「子どもを理解し」「どう成長をするための遊びを構成するか」を考えると力量が必要である。また、今進められている「個別最適化」の教育については、幼児教育では当たり前のことなので、今後ここは重要な評価項目と言える。</p>	<p>A</p>	<p>○教室内の掲示物に目標としている言葉が書かれていました。また、学期ごとなのか段階的に何をやるのかが掲示されていたところもありました。目標に向けて計画が成されて活動されていたのだと感じます。</p> <p>○子どもの活動の姿、日々の動きが習慣化され、自分自身で行っている姿を見ると、日々先生方が計画的に指導を継続していることが子どもに身に付いていることがわかりました。</p> <p>○時期にあったものや子どもたちが興味を示しそうなものが教室内にたくさん掲示してあり、子どもの好奇心をうまくくすぐっているなど感じます。逆に、子どもが家庭で興味をもったものを先生が保育に取り入れてくれたことがあります。子どもはかなり嬉しそうでした。全体を見ながら個人の意見を拾うのは大変だと思いますが、タイミングが合えばぜひ子どもの関心を保育に取り入れて欲しいと思います。</p> <p>○計画、という点においては、行事が一つの目安・目標になってくると考えられる。限られた時間や機関の中で全体としての成長に焦点を当てるだけでなく、個々の力をどう伸ばすか、という点も重要になってくる。先生方が個々への対応を疎かにすることなく、丁寧に向き合ってきたからこそ、運動会や発表会での目に見える舞台上で子どもたちの成長を目の当たりにすることができるのだと思う。</p> <p>行事において、先生方の振り返りだけでなく保護者からもアンケート（提出は任意）をとることで、今後の計画における参考になるのではないかと思う。</p>

				<p>今年度より、親子での卒園遠足がなくなり、行事も見直されているが、幼稚園生活最後のイベントとして楽しみにしている保護者は少なからずいるので、やる・やらないという極端なものではなく、限りある予算や時間の中で、できることを保護者と一緒に考える機会を与えていただきたいと思った。（「なくなりました」「やめました」の決定通知を出す前に保護者からも意見を出させていただける機会がほしいと思います。）</p>
<p>II 保育の在り方 幼児への対応</p>	<p>A</p>	<p>○健康と安全への配慮 教育活動の優先順位は、1位は「安全」2位は「人権」3位が「教育効果」である。この評価項目では、まず「できていて当たり前」なこと、次に「できたほうがいいこと」、そして「できていればすばらしいこと」に分けて考えると、「できて当たり前なこと」は100%でなくてはならない。各職員は、その点の意識をきちんともって保育をしている。 自己評価としても、園全体の傾向としての職員アンケートとでもどれも概ね90%の達成率である。 この点について、私たちが目指すのは例えば「不適切な言動をしないこと」ではなく、「子ども一人一人を考えて、いかにできるだけのことをしたりできるだけの言葉をかけたりすることできるか」が問われることなので、職場内でも「子どもの良さを捉え、その子に合った手立てを考えるなど」質の高い人権感覚をもっている必要がある。 安全面については、危機管理意識を常に持ち、「ヒヤリハット」など日常の意識向上と最新の情報受け止めが大切だと考えている。 ○幼児の見取りと理解を指導にいかす 「全職員で全園児を保育する」という意識は全体的に高い。担任だけでなく、いろいろな場で多くの職員と子どもたちは関わっている。子どものみならず、保護者の方々ともバスや送り迎えなどを通してコミュニケーションを図っている。子ども理解は、「多様な機会」と「多様な見取り」で深まることは確かなので、全体で共有できる場も含めて今後も考えていきたい。 今後さらに考えていきたいのは、子どもの課題は常に目に入りがちだが、子どもの良さや強みをどう全体で共有することができるか。また、個々の成長の姿をどのように次の成長に向けて伸ばす手立てを考える</p>	<p>A</p>	<p>○来園の都度拝見させていただいておりますが、昨年度以上に整理、整頓がされ、ゴミ等も落ちておらず安全性が保たれている様に思います。この状態を維持するのは大変ですが習慣にすることが大切だと思います。また、ヒヤリハットの収集は安全対策に非常に重要だと思います。 ○バス利用アプリが使われているとお聞きしましたが、非常に安全に配慮していて感心しました。 ○外遊びの時には複合遊具付近や自転車遊具付近などに職員がいて子どもの様子を見ていました。安全に気を付けていることがわかりました。 ○室内では、職員が子どもの着替えが自分でできるまで見守る姿や手紙やシール帳のしまい方の声掛けなど子どもの様子に合わせた対応をしていました。子どもが自分でできた喜びが味わえるように丁寧に対応していることがうかがえました。 ○帰宅時の通園バスの中を見る機会がありますが、どのバスに園児たちがしっかり座っており、それを見守っている教師も安全に気を付けている様子が、外から見えてわかりました。 ○幼稚園から病名を挙げて注意喚起の連絡をもらえると、症状が出たときに「○○かしら」と注意できたり、病院にかかるときに申告できたりするため、助かる保護者は多いと思います。安全面への配慮としては、迅速にバスの安全装置を取り付けてくださったことが印象的です。先生方には多大なご負担をかけますが、有用な技術は積極的に取り入れ、日々聞こえてくるヒヤリハットを共有し、今後も大きな事故等を防いで欲しいと切に思います。 また、「麻機幼稚園の先生方は、クラス関係なく園児の名前を覚えていてすごい」というのは多くの保護者が口にしますから、「全職員で全園児を保育</p>

		<p>ことができるかだろう。</p>		<p>する」という意気込みは保護者に伝わっていると思います。昨今話題となっている「人権意識の高まり」については、時代の影響をより強く受けているであろう若い世代の意見を取り入れていくのも一案かもしれません。</p> <p>○「全職員で全園児を保育する」という意識をもって子どもたちに向き合う姿勢は素晴らしいと思う。個々への課題も共有することが可能なので、日々のフォローもスムーズに行うことが出来ると思う。</p> <p>先生方が、互いの位置を把握し、なるべく死角を作らずに子どもたちを見守れるよう工夫されていたり、事前に危険な個所がないか調べていたり子どもたちへの安全に対する意識が高いと感じる。</p> <p>日々の生活の中でも、ハサミを使うタイミングやトイレの様子（1人で出来るか）等、細やかなことも担任の先生が把握しており、必要に応じてサポートする等、子どもたちへの個別のフォローも行っている。その積み重ねが子どもたちにとっても「いつも見守られている」という安心感につながっていると感じた。</p>
<p>III 専門家としての能力・良識 マナー</p>	<p>A</p>	<p>○教職員・組織で働く社会人としての意識と行動を振り返る</p> <p>前半は、教職員としての意識や振る舞いにかかわる内容、後半は教職員に限らず、組織の中で働く社会人として身に付いてほしい内容である。たくさん項目があり、毎年同じ内容ではあるが、年1度は総点検の意味を込めて実施することが大事だろう。</p> <p>また、この項目は個人としての評価だけでなく、そこで働く現場の雰囲気などにも関わる評価ではないと感じる。全体の意識の高さが、個人の意識の高さにつながっている。これは、危機管理や信用などに関わる意識として高まっていることだけではなく、職に対するやりがいや誇りなど満足感や達成感など、ポジティブな感覚での意識と行動であってほしい。</p> <p>どれも自己評価が高いが、「働きやすい風土」「必要に応じた発言」「率先して協力」の項目については、「あまりできているとはいえない」割合が出ているが、「働きやすい職場環境・人間関係づくり」に関係す</p>	<p>A</p>	<p>○一つの教室に複数人の先生が園児の指導に携わっていました。その中での職員同士の対話が多いと感じました。園児を複数人で見ているので対話を通して子ども理解を進めているのだと思います。どの職員も同じように子どもを指導できるのは、このような対話ができているからだと感じます。また、園で子どもに育てたい力が職員にしっかりと浸透しているからだと思います。</p> <p>○幼稚園の先生は子どもが長い時間関わる大人ですから、強い影響力を持っているはずですが、相性の悪い相手にも協調性をもって対応したり、多少の問題が生じてはひるまず、解決のため前向きに立ち向かったりして、自分なりの信念と仕事に対する誇りをもって働く社会人の姿を子どもたちにぜひ見せてやってください。それが、子どもたちの将来の糧になると思います。</p>

		<p>る点では大切なことだろう。</p>	<p>○子どもが伝えたいことを言葉で上手に表現できなくても、聴く姿勢やその気持ちを汲んでくれることから、その子自身を受けとめてくれていると感じる。その過程があるからこそ、子どもたちや保護者からも信頼されていくのだろうと思った。</p> <p>園児の中にルールを守らなかつたり、してはいけないことをした時、その場でしっかり注意をしている。「同じことを繰り返すのが子ども」という認識のもと、根気強く対応されていると思う。</p> <p>先生方がいつも明るく、とても良い雰囲気を作っていると思う。その為、子どもたちも保護者も安心して通うことが出来ている。</p> <p>先生同士のコミュニケーション、子ども同士のコミュニケーション、先生と子どものコミュニケーション。それぞれが上手くとれているからこそ今の園の明るい雰囲気を出せているのかなと思う。子どもは大人をよく見ているので、先生同士の関係が良いからこそ、子どもたちにも反映されていると思う。</p>
<p>IV 保護者への対応</p>	<p>A</p>	<p>保護者と職員の距離は近く、保護者は職員とコミュニケーションがしやすい環境になっていると思う。職員も保護者とのかかわりについては、いろいろな受け止め方や配慮を考えようとしている。この評価だけでなく日頃園長への報告の内容からも感じる事である。</p> <p>保護者に対しては、職員は最善を尽くしているという思いが強いだろう。アンケートからは、共に80%の達成率はあっても、保護者によっては、ほとんど感じないという評価をくださった方も数人はいらっしゃる。保護者の価値観は多様である中、これだけの方々に理解していただいていることは素晴らしいと思いつつも、100%達成を目指すよう、対応したり説明したりしていくことは大事だろう。</p> <p>職員が一人で抱え込むようなことはないよう、管理職を中心に後ろ盾になることは当然であるが、保護者にとって気になる職員の言動など、きちんとキャッチできる体制でいたい。</p>	<p>A</p> <p>○時間の制約がある中で保護者と希望面接を行ったりしてかかわりを大切にされていることが分かりました。園児、一人一人をよく見て、個性を伸ばすことにも配慮されていてよいと思います。</p> <p>○コロナ感染も落ち着き安定した教育ができる環境になってきました。毎月の行動目標を保護者もいつでも見える入口に掲げているのは、常に教職員と保護者で共有できるので良いことだと思います。</p> <p>○手厚い指導で細かく子どもたちを見ていることが分かりました。</p> <p>○本日の時間で保護者への対応についてはわからなかったが、アンケートの結果を見ると職員は、保護者との連絡を密にとってることがうかがえます。園での様子を保護者に丁寧に伝えていることができてから信頼関係も生まれていると感じます。</p> <p>○幼稚園の保護者対応が不十分と感じる保護者も一部いるようですが、幼稚園にできることには限りがあるので保護者からの要求にこたえられない部分が出てくるのは仕方ないことだと思います。それでも保護者の意見をできるだけ多く吸い上げようと思ったら、匿名・自由記述欄のあるアンケートを取</p>

			<p>ったりするのがよいのではないのでしょうか。</p> <p>○バス通園の為、なかなか園での様子を聞くことが出来ず、残念だが、園まで送迎するときに普段の様子を聞くことが出来るので、機会を上手く利用している。もう少し積極的に普段の様子を伝えてくださるとありがたいと感じるし、安心して子どもを預けることが出来る。(先生によって、そのあたりの対応は異なる)</p> <p>担任ではない先生も園へ行くと、声をかけてくださったり、話しやすいと思う。保護者に対して構えるのではなく、まずは受け入れる姿勢・聴く姿勢をとってくれることがありがたいと思う。</p> <p>「普段の保育の様子が分からない、見たい」という保護者の意見もよく耳にする。通常保育中に参観会(発表会のようにかしこまらず、自由に参観)があるとありがたいと思う。</p> <p>子どもたちのことを一生懸命見てくださっている姿勢や熱意は伝わっているので、もう少し先生と保護者が話せる機会があるとありがたい。</p>
<p>V</p> <p>地域の自然や社会とのかかわり</p>	<p>B</p>	<p>○<u>地域を活用しタイムリーで貴重な経験ができる保育</u></p> <p>今年も、2学期までの園外保育の実施状況が25回と多く、計画的なものだけでなく、気候や自然をタイムリーに感じて、園外保育に出かけることも多かった。まず、量的に活用しようという今年度の重点を達成している。3学期も動物園など意図的な園外保育が計画されている。</p> <p>今年、地域活用の大きな行事である「田んぼでの泥んこ遊び」「地域を巡る親子ウォークラリー・みかん狩り」ができ、本園としての特色ある活動ができた。</p> <p>地域や社会との関わりを意図的につくったり、昨年度からも出ているこの地域の良さ(歴史や文化)を意図的に子どもたちに伝えていったりすることは、今年もなかなかできなかった。担任には子どもに対してどう伝えていくかという発想ができにくい点もあり、かなり難しい。</p> <p>自然との関わりでは、用務員の力で今年度入園式からきれいな花がたくさん咲いた。少しでも花があると、年中や年長は図鑑をもって虫がいるか調べることもあった。ダンゴムシや時折カナヘビを見つける子もいる。雨の後は年に2回は沢蟹が園庭隅で見つかることもある。年長は当番を決めて育て、脱皮などの生命を感じる経験を積むことができてい</p>	<p>B</p> <p>○常日頃から麻機の地域性を生かし、自然の中で教育をされているように感じられます。日頃より園外に出て教育されているのが昨年度より多く見られ、良い事だなと思いました。</p> <p>○自治会の活動の中に、本年度から敬老祝賀会を行うことになりました。祝賀会の時に園で行われている演奏や遊戯などを発表されるのも地域のかかわりになるかと思われま</p> <p>○麻機の歴史や文化についても広め、地元愛を幼児のうちか育てていくことはよいと思います。また、材料として例えば「あさはた緑地管理事務所内」の資料を参考にしたり、情報のアンテナを広くしたりするとさらによいと思います。(管理事務所の資料も毎年更新されています)</p> <p>○非常に多くの体験活動をしていることが分かりました。子どもが五感を使って体験できる活動はとても大切だと感じます。幼稚園で様々な体験を通して得てきたことは、小学校の学習での興味・関心を高める事にもつながります。小学校でも地域との連携した活動を進めているので麻機地域での体験活動が充実してくるとさらによいと思います。</p> <p>○近くに緑地公園もあり、生物などの自然に親しむに</p>

		<p>る。こういう生き物などに関わる評価は大変低いので、ちょっとした環境づくりで、子どもたちに気付きの芽を育てたい。</p>	<p>は良い環境にあると思います。子どもが自然体験で得た不思議や疑問が小学校の追究の学習につながると嬉しいと感じました。</p> <p>○麻幾幼稚園は園外保育の機会を多く設けてくれているし、子どもたちはある程度の自然環境とありふれた虫(だんごむしなど)があれば先生や友達と楽しく遊べる印象があるため、地域の活用については他の項目より優先度は下がる気はします。とはいえ、貴重な動植物や自然現象を観察したり、先生や友達と地域の文化に触れたりした経験はあとで必ず生きてくると思うので、機会があればどんどん活用してほしいと感じます。</p> <p>○園外保育が多いことはありがたいと思う。地域の素材は色々あると思う。最近ではバナナの栽培をしているところもある。ぜひ多くのもや人と触れ合い、地域を好きになって欲しいと思う。</p>
<p>VI 研修と研究</p>	<p>C</p>	<p>○遊具・教材 園内環境に関する研修</p> <p>園内研修は、「特別支援研修」「危機管理研修(救命救急法)」の2回行った。夏に行われた研修に全員で参加したのは、県単位の「特別支援教育研修」である。</p> <p>各学年の保育計画や行事等での実施計画などでは、遊びの環境やどんな遊びを展開するかの話し合いは良く行われている。けれども、園内研修の計画や実施はなく、それぞれは今までのキャリアや学年の話の中でその都度どんなふうに遊ぶかを決めている。</p> <p>たとえ毎年同じ学年をやっても同じ遊びをするだけにはとどまらないが、遊びの実践報告など、今年度なりに積み上げている園としての研修はない。</p> <p>○特別支援教育への理解と具体的な実践</p> <p>夏の研修に職員全体で参加したり、月の保育方針などに資料を提供したりした。今年変わった理事長の専門分野なので講話をしていただいたりした。</p> <p>特別支援教育への重要性はありながらも、今年巡回のカウンセラーが変わったことで、カウンセラーとの面談や協議に職員は全く関わらなくなった。園長と理事長との協議でその内容を担任に伝えている。</p>	<p>B</p> <p>○遊具の点検もされていると伺いましたが、日にち、週、月例と点検項目を決めてされるとより安全性が向上すると思います。</p> <p>○職員の研修は大切です。社会が目まぐるしく変化していく中で、幼児期に付けたい力が示されています。職員の皆さんが日々子どもの目線に立って連携しながら指導に当たっている姿はとても素晴らしいと思います。評価書の説明にも書いてあるように一人一人に対応した指導を進めていただき、子どもの日々の成長を喜んでいけばうれしいです。</p> <p>○「どのような遊びが園児にどのような影響をもたらすのか」を科学的な見地から把握している先生はプロフェッショナルだと感じます。先生方が今まで積み上げてきた経験を言語化・分類し、より高い精度で情報共有・情報交換できるようになるなら、研修や勉強会などに時間を割く価値があるのではと思います。</p> <p>○以前は、廃材遊び(工作)があったと聞いている。折り紙やぬり絵など、ちょっとした小物を制作して持ち帰って来るが、もう少し幅を広げてあげられると良いと思う。また、「先生に作ってもらった」と持ち帰って来る物も多く、子どもたちに丁寧に関わっていることが伝わってくるが、子どもが自ら挑戦する機会や声掛けも増やしていただけるとありがたいと思う。</p>

大事なことは、子どもにはいろいろな特性をもった子がいて、そういう子どもも含めて保育していくことが保育者として当然のことだということへの認識、どんな子にも対応していくことが保育をする上で必要な力量だということの認識を高めたい。

園外保育を通して、自然や季節を感じる人が多いと思うが、園内にももう少し植物を増やし、その紹介を子どもたちにしてほしい。卒園式の為に子どもたちが自分たちの手で種や球根を植えてみるだけでも、興味の持ち方や関心の度合いが違ってくると思う。

各クラスを参観して、どのクラスも先生が全体をよく見ていることが分かった。小さい子のクラスは先生が数人入ることで、じっと座っている時間を減らしたりすぐにサポートに入れる態勢が来ている。また、子どもたちのすべきことを言葉だけでなく、先生による実演やイラストにして分かりやすく理解させる為の工夫が見られる。支度や作業の早い子ども皆が終わるのを待つことが出来るよう、先生の声掛けなどが見られた。

- 特別支援の必要な子どもは年々増加しています。外部機関とも連携しながら早めに対応していけば良いです。また、小学校とも早くから情報共有できると嬉しいです。
- 特別支援教育についてはカウンセラーが関わり、職員が関わらないのは仕事の簡素化になり負担の軽減になるが、内容の伝え方には十分な配慮が必要ですね。
- 特別な配慮が必要なお子さんが増えつつある昨今、早いうちから専門機関に繋げることが求められている一方で、「お子さんは他の子と少し違うかもしれない」と指摘されることは保護者にとってかなりの衝撃を伴います。ショックを和らげるため発達の専門家が同席している場で伝えたり、家庭内で問題意識を等しく共有してもらうためご両親が揃っている場で伝えたりする工夫があるといいのではないのでしょうか。
- 特別支援教育に関しては、気になる子どもの保護者へ声を掛けているようだが、なかなか難しい部分はあると思う。専門的な知識を持った方にも関わっていただくなどの対応は必要かもしれない、と感じた。

4 今後取り組むべき課題

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」達成に向けた子どもの見取りと評価

この育ってほしい10の姿に関わる内容を「保護者アンケート」「職員アンケート」で回答していただき、集計した。保護者の方は満3歳児なりに育っているものもあるとのコメントをいただきながら、回答してください。項目は全16項目ある。

95%を超えているのは、「生活習慣が身に付く」「歌や楽器に興味」「進んで体を動かす」で他10項目は約90%という高い結果だった。

80%を超えていなかったのは、「相手のことを考え行動」「数量・図形・文字に関心」位であった。

保護者にとっては、本幼稚園の取組で育っている力があるという評価であるのはありがたい。

職員としては、逆に90%を超えていえるものはないが、わからないという評価も多いので、10の姿はあくまでの教育の過程的な目指す姿ではあるが、捉えていく必要があるのではないかと。